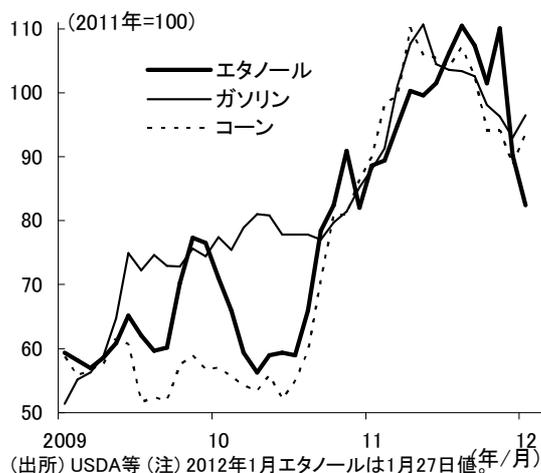


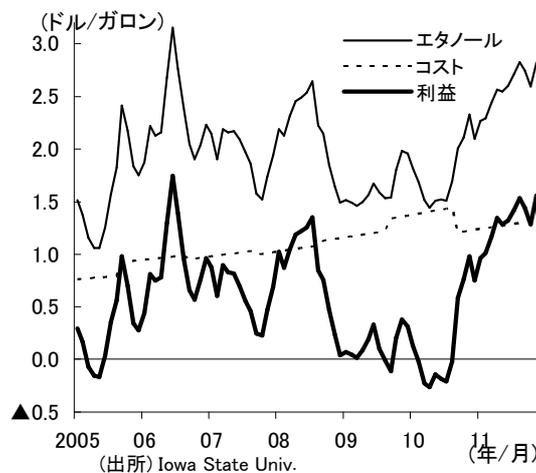
エタノール反転上昇の公算 ～ 食糧制約増大の懸念 ～

- (1) エタノール価格が大幅下落（図表1）。昨年11月の2.82ドル/ガロンをピークに、本年1月末には2010年末以来の2.11ドル/ガロンへ。近年のエタノール価格上昇を受けてコーンの生産量が増加。加えてコストは趨勢的に増加しているものの、依然エタノール1ガロン当たり1.4ドル弱（図表2）。一段の値下がりでも未だコスト割れに至らず。コーン生産に対する農家の積極姿勢に大きな変化は見込みにくいとして、さらなる需給緩和を見込む向きも。
- (2) しかし、エタノールの価格下落余地は次第に縮小。競合するガソリンと生産コストであるコーンの価格動向に左右されるなか、ガソリン、コーンとも昨年末以降、再び値上がり傾向に転じているため（図表1）。さらにガソリン価格は今後一段と値上がりが進む公算大。ガソリンは原油価格に若干遅行して変動。すでに原油価格はWTIベースで1バレル当たり100ドル、北海ブレントで110ドル水準。現状水準の推移が続いた場合、原油価格との従来の関係に照らせば、今後、ガソリン価格は1ガロン当たり本年1月の3.4ドルから3.7ドル前後に上昇。
- (3) 価格上昇はコーン生産に対する農家の積極的な姿勢を一段と増幅に作用する筋合い。世界最大の穀物輸出国である米国の近年の穀物植付面積をみると、趨勢的に小麦や大麦が減少。主因はコーンの植付面積増（図表4）。ブラジルやアルゼンチン、ウクライナでも同様の傾向。いずれも小麦を含め、国際的に有力な穀物生産国。このようにみるとエタノール価格再上昇は食糧供給制約の増大を招来する懸念大。とりわけ、昨年年初に起きた民主革命の成果が乏しく国民各層からの反発が再び強まっているエジプトをはじめ、北アフリカ・中東エリアは貧困層が国民の過半を占めるだけに、情勢流動化の引き金となる展開が視野。

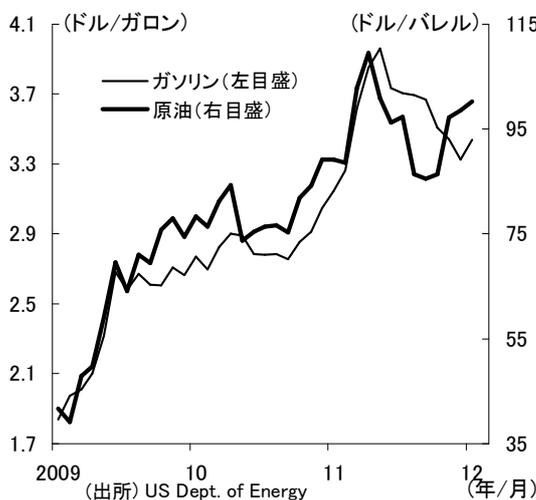
（図表1）エタノールとガソリン、コーンの価格推移



（図表2）エタノールの価格、コスト、利益



（図表3）ガソリンと原油価格



（図表4）米国穀物別植付面積

